

なにもささ踊り秋田で披露

国重要無形民俗文化財「毛馬内の盆踊」にゲスト出演

8月23日(木)、秋田県鹿角市の毛馬内で行われた「毛馬内北の盆2012」に、町のなにもささ踊りがゲストとして招かれ、なにもささ保存会(会長 坂田久仁彦)の一行22人が、踊りを披露しました。



「毛馬内の盆踊」

秋田県三大盆踊りの1つ。かがり火を囲んで、2つの踊りを優雅に踊る。紋付きや留袖、訪問着などを着用し、豆しぼりで頬被りをするのが特徴。



平成10年、国の重要無形民俗文化財に指定される。

国の重要無形民俗文化財「毛馬内の盆踊」が行われる会場で、約1時間にわたってなにもささ踊りを披露した一行。最初は、なかどまりまつりでも行われる「流し踊り形式」、次に作業時に唄われたという「中里土搦唄」での踊り、最後に本来の踊り方である「輪踊り形式」のなにもささ踊りを披露し、沿道の観客から大きな拍手をもらっていました。

踊り手として参加したなにもささ保存会の三和泰子さんは「小さいときから踊っているなにもささが、このような由緒正しい盆踊りに招待を受けるとは。毛馬内は、昔ながらの雰囲気があり、踊りも静かな趣のあるもので、伝統を感じさせるものだった」と感想を話しました。

風を切る爽快さ乗馬で

中泊乗馬クラブ

皆さんは、町に乗馬クラブがあるのをご存じですか？ 中里地域の田園地帯には、サラブレッド4頭が所属する「中泊乗馬クラブ」(竹内宏人会長)があります。取材したときは、そのうち2頭のサラブレッドを走らせ、さっそうとたてがみをなびかせていました。

同クラブのクラブ長をしている山崎正貴さんに話を聞くと、この乗馬クラブは5年前から行っていたそうです。「五所川原市でクラブをやっていたんですが、事情があってやめることにしたんです。そのときに竹内会長と会い「続けませんか？」と言われ、続けることができたんです」と話します。

クラブの活動は、日本馬術連盟・県馬術連盟に加盟していることもあり、競技会の参加を目標にしているそう。乗馬を通じて「体力の向上や美容・健康もそうだが、馬をかわいがる気持ちを感じてほしい」と山崎さんは話していました。

入会手続きや会費など、中泊乗馬クラブへのくわしいお問合せは山崎さん(☎080-6029-2257)まで。



若いチカラで
地域を元気に

中里
高校生

さまざまに活動に大活躍

永山尚太ギター 弾き語りコンサート

農村活性化施設では8月4日(土)、シンガーソングライター永山尚太さんによるギター弾き語りコンサート「未来へ～明日へ～」が行われ、中里高校生7人がスタッフとして参加しました。

7人は、コンサート開始約2時間前に会場へ到着。イベントを行う(株)アクトプランの社員から、接客のマナーや言葉遣い、お辞儀の仕方などを教わり、就業体験さながらの打合せを行っていました。

それぞれに会場の案内係や、飲物のサービス係、チケットを切る係などが割り当てられ、訪れるお客さんをもてなしていた7人。コンサート開始前には、その7人が改めて紹介され、観客から拍手を受けていました。

コンサート中は、永山さんの透き通るような声に魅了されたお客さんたち。アンコール前には、有名なBEGINの曲「島人ぬ宝^{しまんちゅ}」を歌いましたが、高校生たちが一緒に「イーヤーサッサ」とかけ声を入れ、盛り上がるうちにコンサートは終了。最後の見送りまで、スタッフの高校生は大活躍でした。

参加した3年の女子生徒は「接客のいい勉強になった。永山さんの歌には感動。うまくて、トリハダが立った」と興奮気味に話していました。



畑の学校・食卓の学校に 高校生まちづくり塾生が参加

8月5日(日)には、今年2回目の高校生まちづくり塾が行われ、塾生19人が参加しました。

今回のまちづくり塾は、グリーン・ツーリズムの会「かけはし」が行っている「畑の学校・食卓の学校」の3回目とタイアップして行われ、かけはしの会員と高校生が、田中恵津子さん(若宮地区)の農園で、野菜の収穫体験を行いました。

19人が収穫したのは、トウモロコシ、ナス、ピーマン、ジャガイモといった野菜で、特にナスやピーマンは、見たことがないほどの巨大さにびっくりしたよう。暑い中での作業でしたが、高校生は次々と手際よく作業をしていました。

収穫した野菜は、お昼のバーベキュー用に女子生徒が料理。男子は火おこしをやって、準備を整えました。会員も混じって行われたバーベキューでは、焼かれた肉や野菜と一緒に食べながら、今日の作業を振り返っていました。

去年に引き続き参加した男子生徒は「ナスの収穫では、大きな葉に隠れて探すのが大変だった。農作業を通して、地元を知るいい機会になった」と手応えを感じていました。



日独スポーツ少年団と 英語でデイスカッション

8月6日(月)には、漁火センターで行われていた日独スポーツ少年団交流に、13人の生徒が参加。そば打ち体験とデイスカッションを行いました(関連記事20ページ)

はじめに行われたそば打ち体験では、熊本小泊支所長が講師となり、そばの打ち方を実演。ドイツ交流団員と中里高校生が混じって4グループに分かれ、お昼に食べる



そばを打っていきます。

そば打ちは、そば粉に水を混ぜてかき回すところから始まり、粘土状にしたものを伸ばして最後に包丁で切るといった流れになります。そこにとどり着くまではいろんな作業が必要で、うまくいかずに苦労していました。それでも、そのグループごとにお互いに手伝いながら、おいしいそばを完成させていました。お昼には、そば打ちの感想を話しながら、そのそばを食べ、互いに交流していました。

午後は「今、私たちにできる社会貢献スポーツ活動で何ができるのか」をテーマに、ドイツの交流団員と議論。最初は日本、ドイツお互いの学校や、スポーツ活動に関するプレゼンテーションを行い、3グループに分かれてデイスカッションしました。中里高校生、ドイツ団とも、お互いに慣れない英語を使つての議論でしたが、リーダーの進行に従つて意見を出し合い、最後に成果を発表していました。

デイスカッション終了後には、記念のプレゼント交換も行った両者。議論を通して交流が深まったようでした。

学校のプレゼンを行った3年生の秋田真悠さんは「(英語を)ゆつくり話すと分かってくれ、理解もしやすかった。自分が話した言葉にうなずいてくれ、通じることが楽しかった」と英語でのコミュニケーションを楽しんだようです。

灼熱の列車内でも 元気に接客

8月5日(日)午前中に、2回目のもちづくり塾で農業体験をしてきた生徒たち。その足で午後は「のれ!それ!中里実行委員会」が行っている「真夏のストーブ列車」運行を手伝い、地域づくり活動の一端を体験しました。

午後2時30分に津軽鉄道津軽五所川原駅に到着した高校生たちは、出発セレモニー後、列車へ乗車。中は蒸し風呂のような暑さで大変でしたが、そこは若い高校生らしく、元気に乗客をおもてなし。駅を出発後、

車内での飲物販売や、するめを焼いたりなど、元気に動き回っていました。約50分の運行を終え、津軽中里駅に着いた高校生は、ここでも物産販売



を応援。乗客たちが津軽中里駅を出発して折り返すときには、主催者スタッフとともに、手を振って見送りもしました。若いパワーで暑さを吹き飛ばす活躍をした高校生たち。2年生の若山悠太くんは「ストーブ列車はとても暑かったけど、イカ販売などお客様と接することがとても楽しく、また非常に喜んでくれてうれしかった。大変だったけど、貴重な体験をした」と話していました。